

令和3年度

幼稚園だより 7月号



文京区立千駄木幼稚園

開園45周年を迎えて

園長 渡邊 典子

幼稚園の門をくぐると木々の木陰が心地よさをもたらしてくれます。鳥のさえずりでリフレッシュもでき、改めて幼稚園が自然環境に恵まれていることを感じます。

本園は今年開園45周年を迎えました。これも皆様のおかげと感謝申し上げます。園児と保護者やお客様と一緒にお祝いをしたところでしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により5歳児のみでお祝い会を行いました。お祝い会をするにあたり5歳児が、「誕生会をするのならケーキがあるといいよね」「果物がたくさんのお菓子がいいね」と大きなケーキを作り、お祝い会の中で、お祝いプレートとローソクを立てて完成させました。そして、おめでとうの言葉も幼稚園にプレゼントしました。

今回45年間を振り返る機会になりました。昭和51年に開園された本園ですが、それ以前の昭和38年の地図を見付けました。森のような一角が千駄木小学校の隣に確認できます。用地を選び、幼児にふさわしい建物を設計し、自然環境を十分に生かした魅力ある幼稚園を区当局と地元の皆様のおかげで創設していただいたことが、初代北条要子園長が5周年の記念誌に記しています。大きなタブやイチョウの木などは開園当初からの宝であり、昭和53年に制定された園歌の歌詞にも登場しています。

お祝い会で以前の幼稚園を紹介すると、園庭での運動会に大勢の幼児が紅白帽を被って並んでいる様子に「学校みたい」との声や「え、アヒルがいたんだ」「(昨年)ロープで私たちも遊んだ」など以前との違いや今も同じ遊びをしていることを知る機会となったようです。チャレンジ広場も8年後の園庭拡張によるものであったり、当初から丸太小屋が設置されていたことを知り、PTA広報誌のタイトル『まるたごや』として継承されていることの嬉しい発見もありました。

先日4・5歳児が『踊って楽しいフラダンス』の体験を行いました。ゲストでお迎えしたお二人には共に小6と中3のお子さんがいらして、本園の保護者として出会い、それからフラダンス仲間として関係が続いているとのことでした。今回、フラダンスを披露することが恩返しになれば嬉しいと引き受けてくださいました。同様に元保護者の方に、現在いろいろな立場の仕事に携わっていただいています。保護者や地域の皆様に愛され、支えられていることを実感するとともに、信頼される幼稚園であることの責務を感じます。

開園45周年を迎え修了生は2,330名となりました。本園を修了された方が、今度は保護者となりお子さんを通わせてくださっている方もいます。開園当初も現在も、自然物や生き物を身近に感じ、感性を揺さぶる体験を子どもたちにしてほしいという願いは同じなのでしょう。

立地条件のよさを生かした保幼小中のつながりの強さも宝です。これからも千駄木幼稚園のよさを生かし、時代の変化に対応しながら、発展できるように努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



昭和38年の幼稚園用地の写真



お祝い会